

型紙のホールにおける特別な点

○今岡春樹*, 増田智恵**

(*奈良女大, **三重大)

目的 型紙に表れるアームホールなどのホールを考えると, その部分は円錐の頂点の周りを裁断したものと見なすことができる。ホールはいくつかのピースを縫合して作られるが, その縫合線が頂点からの母線と一致するか否かを判定する手法を検討する。

方法 立体での円錐の頂点を平面上で求めれば縫合線と母線の関係が明確になる。縫合すべき2つの線のホール側の2つの端と交点の3点を通る円と2つの端の垂直二等分線の交点が求める点となる。これをホールの”目”と呼ぶことにする。

結果 ホールの目を求める幾何学的な関係が求まった。例えばアームホールの目とネックラインのホールの目を結んだ線分を与える。また, アームホールの目とバストポイントを結んだ線分も与える。このような線分から, 衣服を立体に組み上げた凸多面体を構築することができる。目を結んだ線分上に縫合線があれば, 無理のないデザインであると考えられる。もし一致していなければ, そこにはデザイン上の理由もしくは組み上げた凸多面体の立体形状と人体形状の間に違いが顕著であるという理由などが考えられる。